

一卵性双生児に見出された頬舌的に圧平された下顎 第一小白歯について

著者	小西 通雄, 鈴木 敏彦, 菊地 正嘉
雑誌名	東北大学歯学雑誌
巻	15
号	2
ページ	185-185
発行年	1996-12
URL	http://hdl.handle.net/10097/31566

歯学情報

一卵性双生児に見出された頬舌的に圧平された 下顎第一小白歯について

東北大学歯学部口腔解剖学第一講座

小 西 通 雄・鈴 木 敏 彦・菊 地 正 嘉

著者らは頬舌的に圧平された下顎小白歯の形態異常についてすでに報告したが¹⁾、今回、一卵性双生児において同様の形態異常を見出した。形態異常が見出されたのは13歳の男子一卵性双生児2名の左右両側の下顎第一小白歯である(図1)。

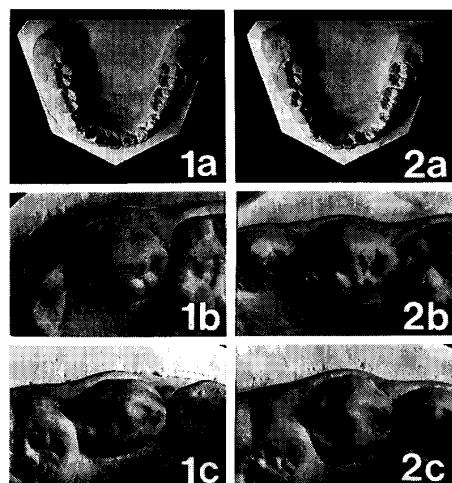


図1 第1例および第2例写真

1: 第1例 (a 下顎歯列弓, b 4, c 4)
2: 第2例 (a 下顎歯列弓, b 4, c 4)

第1例: 右側の第一小白歯の歯冠は頬舌的に強く圧平され、近遠心的な長軸を持つ楕円形を呈していた。咬合面は遠心半に比べ近心半の発達が劣っていたため、近遠心的に非対称であった。固有咬合面ではこの傾向がさらに顕著であり、また固有咬合面は舌側に強く偏位していた。頬側咬頭の発達は良好で、その咬頭頂は近心側に偏位していた。舌側咬頭はその咬頭頂も不明瞭なほどに発達が悪かったが、全体として遠心側に偏位していた。頬側および舌側咬頭の中心隆線は互いに食い違い、前者は近心側に、後者は遠心側に流れていた。中心溝は頬舌側の中心隆線によって完全に中断されていた。固有咬合面には近心および遠心の頬側副隆線および遠心舌側副咬頭が存在した。頬側面の歯頸部には幅およそ3mmにわたり歯帯の名残りと思われる明瞭な隆線が存在した。左側の第一小白歯の歯冠も右側と類似した形態を呈していたが、頬舌的な圧平度がより顕著であったことと、近心舌側面溝が存在したことが異なっていた。当該歯以外の現存歯の歯冠形態に異常は認められなかったが、左側下顎中切歯の欠如がみられた。

第2例: 左右側の第一小白歯の歯冠形態は第1例と類似していたが、異なる点は以下の通りである。左右側の第一小白歯の頬舌的な圧平度はやや劣っており、頬側咬頭は歯冠のほぼ中央に位

置していた。右側第一小白歯の舌側咬頭の発達がやや優っており、かつ近心側に偏位していた。頬側中心隆線は遠心側に、舌側中心隆線は近心側に流れていた。遠心頬側副隆線および遠心舌側溝がそれぞれ2本ずつ存在した。左側第一小白歯の頬側および舌側咬頭の中心隆線が連なり、連合隆線を形成していた。近心および遠心舌側溝がそれぞれ1本ずつ存在した。

本2例の下顎第一小白歯の歯冠の頬舌径はすべて平均値(8.06)を下回り、逆に近遠心径が平均値(7.31)を上回っていたため、歯冠指数(〔頬舌径/近遠心径〕×100)はすべて100以下(平均値110.3)となった(表1)。著者らは、頬舌的に圧平された下顎小白歯を、「頬舌的圧平型」と「近遠心的延長型」の2種に分類した¹⁾。前者は歯冠が頬舌的に圧平された外観を呈するもののうち、歯冠の頬舌径が平均値よりも下回っているものであり、後者は頬舌径が平均値と同等かあるいは上回っているものである。計測結果からみると、本2例はともに「頬舌的圧平型」の下顎小白歯に分類されることとなる。

表1 下顎第一小白歯の計測値(mm)

症例	左右側	頬舌径	近遠心径	歯冠指数
1	R	7.00 (↓)	8.00 (↑)	87.5 (↓)
	L	6.40 (↓)	8.00 (↑)	80.0 (↓)
2	R	7.30 (↓)	7.95 (↑)	91.8 (↓)
	L	7.00 (↓)	7.65 (↑)	91.5 (↓)

(↑) 平均値を上回るもの、(↓) 平均値を下回るもの

頬舌的に圧平された下顎小白歯の形態異常の発生因子としては、Butler (1939)²⁾ の“field concept(場の概念)”や、Dahlberg (1949)³⁾ の“compression factor(圧縮因子)”，また酒井(1974)⁴⁾ の“atavism(先祖返り)”等の諸説が存在する。著者らは、頬舌的に圧平された下顎小白歯の出現と歯の欠如との間に強い相関を見出し¹⁾、この種の小白歯の形態変異は退化的現象の一つであろうと考えている。今回見出された症例が一卵性双生児の両者において、しかも両側性に出現したものであることから、この形態異常の発生は遺伝的因子に強く支配されるものと考えられる。

文 献

- 1) 小西通雄, 菊地正嘉, 佐伯政友: 頬舌的に圧平された下顎小白歯について, 東北大学歯誌 10: 13-20, 1991.
- 2) Butler, P.M.: Studies of the mammalian dentition, differentiation of the postcanine dentition. Proc. Zool. Soc. 109: 1-36, 1939.
- 3) Dahlberg, A.A.: The dentition of the American Indian. The Physical Anthropology of the American Indian (edited by Laughlin, W.S.), pp. 138-176, Viking Fund, New York, 1949.
- 4) 酒井琢朗: 頬舌的に圧縮されたハワイ人下顎第2小白歯の1例. 日本口腔科学誌 25: 441-444, 1974.